

「中津小学校のはんや踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立中津小学校

2 学年・人数

小学1年生から6年生（計21人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年7月～9月 中津小学校体育館・校庭

(2) 発表の日時・場所

令和5年9月17日（日） 令和5年度中津幼小大運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

中津はんや（なかつはんや）

(2) 由来

古くから、天草の「ハンヤ節」が南下し、阿久根、川内、坊津などの港に移入したもので、奄美の「八月踊り」の六調子のリズムを加えてお座敷唄になったと言われている。その後、「正調川内はんや」として受け継がれていたものに、曲調を替えた現在の「ロックはんや」につながると思われる。

(3) 構成等

「甕の大自然」をテーマに、「甕の海の美しさ・荒波のすごさ」「力強い漁師の姿」「海の魚たち」などになぞらえた振り付けを行っている。大漁旗を掲げる所作は、中津の子供と島民全体の一体感を表し、「ふるさとを愛する心」を捧げる。古くから伝わる「ほら貝」の音で、海の安全と大漁を祈っていると伝えられる。

5 保存会や地域との連携の具体

平成23年3月、これまで「はんや踊り」に取り組み、全国大会にも参加するほどだった薩摩川内市立平良小学校が閉校し、薩摩川内市立中津小学校に統廃合された。統廃合に伴い、中津小が平良小の伝統を引き継ぐ形で取り組むようになった。平成24年から、中津小の運動会や学習発表会、上甕町の文化祭、甕大明神マラソン大会アトラクション等で、児童によるはんや踊りを披露した。従来は、学校の教育活動として伝承活動を位置付けてきていたが、授業時数の削減等により練習時間を授業の中だけで位置付けることが困難となってきた。そのため、平成26年度から学校が事務局となり、保護者の全面的な支援の下、「中津はんや隊育成会」を発足させ、中津はんや踊りを上甕地区全体の郷土芸

能として位置付けた。平成29年度は、児童数減に伴い、会員を小学1年生から6年生とし、地域ぐるみで踊りを伝承していく体制を整えた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

本年度は、「中津はんや隊育成会」での活動が困難となったので、協議の末、学校の教育活動内で中津はんや踊りを伝承していく体制をとった。

そして、中津幼小大運動会を伝承活動の発表の場として位置付け、当日に向けての練習を計画的に行った。当日、堂々と中津はんや踊りを多くの方々の前で披露することができた。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【中津幼小合同大運動会(9月)】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【保護者・地域の方】

はんやは、見応えがあり、良かった。地域の方も喜んで見ていた。

【教職員】

- ・ 全員の動きをそろえることを意識しながら、メリハリのある表現ができていた。最後のポーズもかっこよく決めることができた。
- ・ 練習の成果を生かし、素晴らしい演技をすることができた。
- ・ 生き生きと踊ったり、元気に声を出したり、児童の精一杯の演技を誇らしく思えた。